

学生による「学生憲章」解説



学生憲章作成にあたり、根本として掲げたことは“学生として”ではなく“人間として”の姿勢を書こうということである。

なお、これは決して学生に対する理想像の強制を目的とはしていない。今回挙げた指針が万人にとっての理想だとも考えてはいない。これは一つの形であり、学生が自身の将来像を考えるための“きっかけ”になればと提示したものである。

鹿児島大学 学生憲章

私たちは、鹿児島大学の学生であることを誇りとし、学ぶことのできる環境^{ひら}に感謝し、桜島のように気高く、時には激しさを持ち、自らを磨き、未来を拓いていきます。

(1. 進取の精神と自己実現)

1. 私たちは、我が国の変革と近代化を推進した先人達の「進取の精神」を継承し、困難な課題にも果敢に挑戦し、強い意志と柔軟な心を持って自己実現を図ります。

(2. 勉学と将来の目標)

2. 私たちは、幅広い教養を身につけ、高度で専門的な知識・技能を修得し、地球的視野を持って活躍する人間になることを目指します。

(3. 課外活動と人間力の涵養)

3. 私たちは、サークル活動などの課外活動に積極的に参加し、仲間との友情^{はぐく}を育み、思いやり深く魅力溢れる人間になります。^{あふ}

(4. 地域社会と貢献)

4. 私たちは、地域社会との関わり^{かか}の中で、一人の人間として責任ある行動を心がけ、社会に貢献できるよう全力を尽くします。

平成 22 年 11 月 15 日制定
(第 61 回鹿児島大学開学記念日)

誇りとするとは、胸を張れるということ。周りがどうかではなく、自分が自信を持つようにすること。

ここでいう環境とは、両親・師・仲間といった“人”を含めた自分の周りの全てのもの。

鹿児島の象徴である桜島の姿や力に、学生の姿勢を重ね合わせた。

磨くというのは、精錬のこと。己の余分なものをそぎ落として、研ぎ澄まされた先に、可能性の開拓がある。

先人達の築き上げた意志を理解し、後輩へ継承するという、縦軸の繋がり。

若さゆえの勢いに乗って、まず問題にぶつかってみる。そんな日々を、強い意志、つまり信念を持って生き、変化に対しては、恐れず柔軟な心で向き合おう。

“世界”という言葉では収まりきらない程の大きさを“地球”で表現。

「人を思いやる気持ち、あるいは人を愛する気持ちは、全ての根本となる大切な気持ちであるはず。」という想いをこめた。

責任とは、自分がすべき当たり前のことに、当たり前に向かい合うということ。

「貢献すること」が目的ではなく、自分の全力の行いが、結果的に「社会への貢献」となれば素敵だという謙虚さと、ひたむきさを表現した。